

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 令和8年4月14日（火）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

教科に関する調査

→ 調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～5学年> 国語、社会、算数、理科

<第6学年> 国語、社会、算数、理科、英語

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

品川区立上神明小学校

〈 国 語 〉

1. 各教科の定着状況についての概要

国語科の正答率は、4年生を除く学年で全国平均を2～4ポイント上回っている。4年生については、あと1ポイントで全国平均に並ぶところまで上がってきた。区平均を上回る学年はないが、項目別に見ると、どの学年でも区の平均を超える項目が1つ以上はある。活用問題に比べて、基礎的な問題の正答率は高く、4年生を除く学年では、学習内容は概ね身に付いているといえる。また、最後に設定されている「文章を書く」問題については、4・5年生の2割、6年生の4割が無回答である。「集中力が切れた、時間切れ、書くことへの抵抗感」が理由として考えられる。集中力が高いうちに、最後の問題に取り組むなど、学年に応じた工夫を検討したい。学年ごとの課題を以下のように捉え、取り組みの指標を明確にした。2学期以降実践していくことで解決していきたい。

2. 具体的な課題

- 2年…共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。
- 3年…問題の条件を読み取ったり、事柄の順序に気を付けて自分の考えを書いたりすること。
- 4年…漢字を正しく書くこと、文章の構成を捉えること、自分の考えを理由や事例をもとに書くこと、相手や目的を意識して伝えたいことを明確に書くこと。
- 5年…漢字を正しく書くこと、連用修飾語を正しく使うこと、調べたことをもとに文章を書くこと。
- 6年…漢字を正しく書くこと、自分の考えとその理由を明確にして書くこと。

3. 課題の原因として考えられること

- 2年・文章をまとまりとして捉え、どのような関係にあるのかを考える機会が十分でなかった。
- 3年・日常的に、問題の意図を読み取って答えたり、考えたりする姿勢や意識をさらに高める必要がある。自分の考えを書く課題になると諦めてしまう児童が見られる。
- 4年・既習漢字を振り返り、日常的に活用していく時間の確保が十分でなかった。理由や根拠を明確にしたり、相手や目的を意識したりして文章を構成し、自分の考えや伝えたいことを書く機会が必要である。
- 5年・既習漢字の復習と修飾・被修飾関係の理解が不十分であった。事例との関係を明確にして自分の考えをもつ機会がさらに必要である。
- 6年・漢字を繰り返し書いて定着させる学習や、既習漢字を活用する機会が十分でなかった。自分の考えを書く際に、理由や根拠を明確にして文章を構成する力が不足していたと考えられる。

4. 課題解決の方策（取組指標）

- 2年・文章をまとまりとして捉え、共通、相違、事柄の順序などどのような関係にあるのかを考える機会を増やす。意図的に練習問題に取り組む。
- 3年・問題の意図を読み取る練習を行う。計画的に「書く」学習を継続し、事柄の順序に気を付けて書く機会を増やす。
- 4年・新出・既習漢字を含めた漢字学習や小テストを計画的に実施し、定着を図る。また、めあてを明確にして文章を書く学習に取り組ませていく。よい文章に日常的に触れられるよう、手本を示したり、教室掲示したりする。
- 5年・新出・既習漢字を含む漢字テストを繰り返し行う。修飾語や辞典の使い方に関する問題、説明文を読み取る問題に取り組ませ、丁寧に解説をして定着を図る。
- 6年・新出・既習漢字を含めた漢字学習や小テストを計画的に実施し、定着を図る。また、自分の考えと理由を結びつけて書く活動を継続的に取り入れ、交流や推敲する経験を増やしていく。

〈 社 会 〉

1. 各教科の定着状況についての概要

4年生は前年度よりも平均正答率が下がり、全国、区の平均正答率や目標値より下回っている。5・6年生は区平均正答率をやや下回っているものの、全国平均正答率と目標値は上回っている。どの学年も基礎問題の平均正答率が高く、活用問題の平均正答率が低い。また、資料の読み取りに課題が見られた。

2. 具体的な課題

4年…「市の様子」「安全な暮らし」「市の様子に移り変わり」「くらしの移り変わり」の問題

5年…「くらしを支える水」「ごみのしよりと利用」「自然災害からくらしを守る－地震」「先人の働き」の問題

6年…「世界の国の国土」「日本の水産業」「日本の工業生産」の問題

3. 課題の原因として考えられること

4年・知識の定着が不十分であった。

- ・資料から読み取り、回答をする力が不十分であった。
- ・テスト後半の内容では無回答が目立ち、回答する速度や集中力の持続が原因であると考えられる。

5年・仕事について考えたり、理解したりすることが不十分であった。

- ・地域の取り組みについて考えることが不十分であった。
- ・年表や資料から読み取ることが不十分であった。

6年・学習した内容について、既習事項と関連付けながら理解することに課題が見られた。

- ・複数の資料から必要な情報を選び取り、根拠を明確にして考える力が不十分であった。

4. 課題解決の方策（取組指標）

4年・学習アプリを活用し、基礎基本の確認も行う。

- ・様々な資料（写真・図・表）を提示し、読み取る練習を繰り返す行う。
- ・資料から自分たちの生活に関連する問いを考え、自分の考えをもてるようにする。

5年・5年で学習する産業や国土の学習において、写真や図、グラフなどの資料の読み取り方を丁寧に引き上げ、自分で読み取る力をつけるとともに、それを言葉で表現する機会を多くとる。

- ・資料を基に調べる経験を増やし、自分の考えをもてるようにする。

6年・資料を比較したり関連付けたりする活動を取り入れ、必要な情報を基に考えをまとめる機会を増やす。

- ・既習事項を振り返る場面を計画的に設定し、学習内容を関連付けながら理解を深められるようにする。

〈 算 数 〉

1. 各教科の定着状況についての概要

算数科の正答率は、2年生以外は全国平均を上回っており、2年生は基礎が0.1ポイント低く、活用が0.1ポイント高いことから、基礎・活用を合わせて考えると全国平均と同じ正答率になっている。特に、6年生は全国よりも9ポイント以上上回っている。区の平均と比較すると、上回っているのは3年生のみであり、2・4・5・6年生は下回る結果となった。領域別の全国平均正答率と比較すると、概ねどの学年、領域も全国平均を上回っているが、2年生4年生の図形、データの活用に課題があることが分かる。

2. 具体的な課題

- 2年…「形」「長さ・かさ」「ひき算」の問題
- 3年…「繰り下がりのあるひき算」「三角形と四角形」「長さ」の問題
- 4年…「大きい数・小数・分数」「円と球」「時くと時間」の問題
- 5年…「面積」「平行四辺形の作図の問題
- 6年…「円グラフや帯グラフ」「整数のなかま分け」の問題

3. 課題の原因として考えられること

- 2年・使われている色板の数を数えたり、物の長さを目盛りのいくつ分かで比較したり、繰り下がりのある引き算の考え方を説明したりと、操作や説明活動の機会が十分でない。
- 3年・問題を解けている児童は他の問いも解けているが、解けていない児童は解けていない。解けていない児童は直感で問題を解いている可能性が高いので、理由を答える場面を増やす。
- 4年・四則計算は着実に力を付けているが、十進位取り記数法や小数の仕組みについて理解の定着が不十分である。また、記述で答える問題では大きくポイント数が下がっており、国語の課題と関連し、自分の言葉で説明をする学習がもっと必要であると考えられる。
- 5年・図形の性質や位置関係を捉える力が不十分。図形の性質や図形を構成する辺や角の関係を理解したり、問題から必要な情報を読み取ったりする力が必要。
- 6年・円グラフや帯グラフの特徴を捉えて読み取る学習や、整数の性質について理解を深める学習が十分でなかった。

4. 課題解決の方策（取組指標）

- 2年・色板を数える、目盛りを読むなどの操作活動や、計算の仕方を説明する機会を増やす。
- 3年・説明をしているときには、聞いていても理解が深まっていないことが多いので、他の児童にもう一度説明してもらいなど、理解度を確認する機会を増やす。
- 4年・数を書くときに位を揃えて書くこと、そのためにノート指導をより丁寧に行っていくことが必要である。また、課題に対して自分の考えを声に出して説明する場面を増やす等、授業展開の工夫をする。
- 5年・作図の手順の意味や図形の性質を言葉で説明する活動を取り入れる。また、具体物を操作する機会も設ける。
- 6年・資料の読み取りや、資料同士を比較する活動を継続的に取り入れる。また、整数の性質を繰返し活用する問題に取り組み、理解の定着を図る。

〈 理 科 〉

1. 各教科の定着状況についての概要

平均正答率は区全体と比較して各学年若干下回る結果となった。領域別正答率を見ると、同程度、または上回っているものもあるが、各学年一つずつ程度下回っている観点があった。

2. 具体的な課題

- 4年…「太陽と地面のようす」「物の重さ」「じしゃくのせいしつ」「光のせいしつ」の問題
- 5年…「動物の体のつくりと運動」「物の体積と温度」「水のすがた」「自然の中の水」の問題
- 6年…「植物の花のつくりと実」「ふりこのきまり」の問題

3. 課題の原因として考えられること

- 4年・理解をもとに推察して指摘したり、説明したりする問題で誤答が目立ったことから、知識の定着が不十分であると考えられる。
- 5年・目に見えないものや事象に対しての理解が不十分。
- 6年・植物のつくりと実のでき方を関連付けて捉えることや、実験結果からふりこのきまりを考える経験が十分でなかった。

4. 課題解決の方策（取組指標）

- 4年・各単元の学習後、学習アプリなどで練習問題に取り組みせ、定着を図る。
 - ・日常の体験と結び付け、なぜその現象が起きるのか、予想を立てさせた上で実験や観察を行う。
 - ・予想・考察・まとめをペアやグループで伝え合い、文章にまとめる時間を確保する。
- 5年・実験や観察の意味を捉えさせ、実験内容及び結果を児童一人一人が意識できるように行う。
 - ・目に見えないものや事象を、視聴覚教材を効果的に活用することで、児童に分かりやすい形で提示する。
 - ・学習内容を身近な自然現象や生活経験と結び付けることで理解を深める。
- 6年・実験前に、目的や方法を確認するとともに、予想とその理由を考える場面を設定し、見通しをもって実験に取り組めるようにする。
 - ・実験・観察の結果を基に考察する活動を充実させ、結果と考察を関連付けて考える力を育てる。
 - ・学習内容を身近な自然現象や生活経験と結び付けて考える機会を設け、学んだことへの理解を深める。

〈 英 語 〉 6 年のみ実施

1. 各教科の定着状況についての概要

- ・ 4 1 問中、区の目標値を下回ったものは 3 問で、目標値と同程度であったものが 8 問であった。他 3 0 問は目標値を上回っている。特に 9 領域の内、「アルファベットの書き」「英文の完成」「英作文」においては、全ての 1 5 項目で区の目標値より上回っていた。

2. 具体的な課題

目標値を下回っていたもの。

- ・ 「単語や表現の意味理解（食品カテゴリー・教科）」
- ・ 「会話全体の理解（聞く）」
- ・ 会話全体の理解については、正答率が 21.2 ポイントと目標値に大きく届かなかった。

3. 課題の原因として考えられること

- ・ 単語や表現に繰り返し触れる機会や、英語を聞いて内容を捉える学習が十分でなかった。

4. 課題解決の方策（取組指標）

- ・ 単語や表現を繰り返し活用する活動を取り入れる。
- ・ 英語を聞いて内容を理解する活動を継続的に行い、聞き取る力の向上を図る。